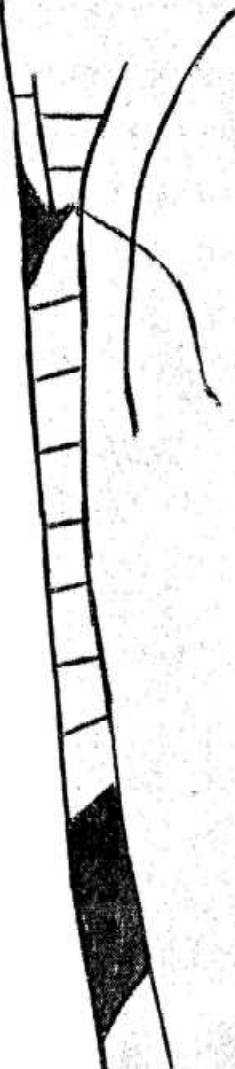


# すすむし

Vol. 11 No. 2

倉敷昆虫同好会

1961. Dec.



## 目 次

表紙デザイン	友 野 良 一	
Symphyta( 広腹亜目) 著二報	近 藤 光 宏	1
ヒラアシキバチの記録とその一生態断面	近 藤 光 宏	4
活動しているセナガアナバチ	近 藤 光 宏	5
おとしぶみ		6
向山でハリサシガメを記録す	近 藤 光 宏	6
科学作品展の中からSymphyta( 広腹亜目)		
及び2~3のAPOCRITA( 細腹亜目)	近 藤 光 宏	6
会 員 動 静		8
編 集 後 記		8

## Symphyta (広腰亜目) 第二報

近 藤 光 宏

去る1959年10月18日~20日岡山大学農学部で開催された日本昆虫学会第19回大会に、倉敷昆虫好会の小野洋氏と共に臨席して、Symphyta の權威者である兵庫農科大学助教授奥谷頼一先生に同定して頂いたところ、次に上げる Tenthredinidae 11種 Argidae 5種の記録が確認されたので、Vol. 10 No. 1 P. 4<sup>\*</sup> ハバチ第一報、に引続き<sup>\*</sup> Symphyta 第二報として御報告致します。

[ Tenthredinidae ] ハバチ科

### 1. *Dolerus japonicus kirby*

オスグロハバチ

倉敷市黒田 (1♀ 1952, 4, 6)

箱根 (1♂ 1952, 5, 30)

鎌倉八幡境内 (1♀ 1952, 5, 31)

かつて、東京方面修学旅行の際、採集した思い出の種である。

体長8mm内外、北海道、本州、九州に分布し各地に普通で、成虫は早春に発生する。幼虫はスギナを食す。雌の体がニホンカブラバチのように黄橙であるのに、雄は、種名のごとく全体黒色で一見別種のようなものである。

なお、Symphyta の採集は、できるだけ、雌雄そろえてなされることが望ましい。本種のように雌雄相違するものが、かなり居るようである。

### 2. *Corymbas nipponica Takeuchi*

フトコシジロハバチ

新見市井倉 (1♀ 1959, 5, 3)

本会員の方々と井倉方谷間の採集行を試みた際記録している。

日本全土に極めて普通に成虫は5・6月頃に発生する。幼虫はクマイチゴ、カジイチゴ、ダイコンソウなどの葉を食すことが知られている。雌に比し、雄の個体は小型である。本科のものには、年1回発生のもものが多く、本種もそうである。

### 3. *Siobla ferox Smith*

オオコシアカハバチ

新見市井倉 (1♀ 1959, 5, 3)

前種の記録と同行程の際得たもので、日本全土、支那に分布し、各地に極めて普通であるが、倉敷付近の純平地にはあまり多くないようである。

成虫は、5・6月頃に発生する。幼虫は、イタドリ、スイバ、ツフネソウなどの葉を食す。その後数個体を記録したので追記しておきます。

高梁市広瀬 (3♂♂ 1960, 5, 22)

大山 (4♂♂ 1960, 7, 3)

新見市井倉 (2♂ 1961, 5, 7)

前種と同じく、雌に比して雄の個体は、小型で、別種のようなものである。本種に関しては筆者も、別々に二度同定をお願いしたようなことです。

### 4. *Macrophya apicalis Smith*

ツマジロクロハバチ

新見市井倉 (1♀ 1959, 5, 3)

新緑の若木の間を活発に飛来していたものを他のハバチ数個体と共に採集した。

日本全土の山地に極めて普通で、成虫は、5～7月頃に発生、幼虫は、ニワトコの葉を食す。新昆虫並びに生態昆虫に、本種について、食草付近の他の植物に産卵する奇習のあることが記されていた。

5. *Macrophya coxalis* Motschulsky

クロハバチ

倉敷市黒田 (1♀ 年月日不明)

新見市井倉 (1♂ 1959, 5, 3)

日本全土に分布し、各地に極めて普通で、成虫は4～5月頃に発生する。

その後、倉敷市連島町の川辺りに、早春芽をふく、ノイバラの葉上において、相継いで雌雄合せて、40個体を記録した。中には、産卵中?のものもあり、幼虫は、おそらくノイバラを食す?ものと思われるが、今だに食草の確證はなされていない。

なお10個体の採集年月日、場所、雌雄別については、紙をあらためて記すことにする。

6. *Lagidina irritans* Smith

クロムネハバチ

倉敷市黒田 (1♂ 1959, 5, 10)

本州、四国、九州の各地に極めて普通で、成虫は5月頃に発生する。色彩には変化多い雌雄の区別は、雄の後翅には中室がないことでわかる。幼虫は、カキトウシの葉を食す。

その後、各地で計9個体を採集し、またその中に、近似種が同じ場所で発生していることがわかり、後日整理して報告致します。

7. *Tenthredella hilaris* Smith

ハラナガクロハバチ

新見市井倉 (1♀ 1♂ 1959, 5, 3)

日本全土、東シベリアに分布する。各地にやや普通で、成虫は、5～6月頃に出現する。

8. *Asiemphtus deutziae* Takeuchi

ウツギハバチ

新見市井倉 (1♀ 1959, 5, 3)

本州・四国・九州の各地に普通で、成虫は5～6月頃に出現する。幼虫はウツギの葉を食す。

9. *Athalia lugens infumata* Marlatt

クロムネカブラバチ

倉敷市連島町 (1♂ 1959, 5, 20)

倉敷市山手村 (1♂ 1959, 6, 22)

保育社「原色日本昆虫図鑑」及び北隆館「日本昆虫図鑑」には、セグロカブラバチとあり、和名にくいちがいがある。

*Athalia* 属他の2種との相違点については後日記したい。

本種は、日本全土に極めて普通に産し、幼虫は、十字科植物の害虫で、年数回発生する。

その後、倉敷市連島町内をはじめ、各地で48個体を記録している。

10. *Tentredina nigropicta* Smith

クロムネオオハバチ

倉敷市黒田 (2♂♂ 1959, 5, 10)

いつも行く黒田を少し登ったところのクヌギの葉上を高く旋廻している本種に気づき、三本つなぎのネットをかまえて待機したが、よいに下向せず、20分位してやっと採集できた。生時は、鮮かな青緑のしまもようを見せていたが、死後腹本にしてから、相当黄変した。

成虫は5～6月頃発生するが、その他の項については記されていない。

その後1960, 5, 16同地にて4♂♂を採集したが、雌はまだ記録されていない。

11. *Tenthredina flavida* Marlatt

トガリハチガタハバチ

新見市井倉 (1ex 1959, 5, 3)

和名のごとく、本種の外観は、スズメバチ科のアツナガバチ、中でもホシアシナガバチ（同所にて、同日に2個体を記録している）に酷似している。Symphyta のものは、剣を持たないが、自然に我が身を保護しているのかもしれない。

本州に普通に産する、成虫は、5~6月頃に発生、幼虫は、ヤマホトトギス等の百合科植物（サルトリイバラ、シオデ、ウバユリ）が知られている。

【Argidae】ミフシハバチ科

12. *Arge similis* Vollenhoven

ルリチュウレンジ

倉敷市住吉町 (1♀ 1951, 7, 25)

〃 (1♂ 1952, 5, 2)

香川県尾島 (1♀ 1952, 5, 30)

新見市井倉 (1♂ 1959, 5, 3)

日本全土、台湾・支那に分布し、年数回発生する。成虫は5~9頃まで見られ、幼虫はツツジ類の葉を食す。

筆者宅の庭のツツジ（キリンマ？）に多発したこともある。

その後、倉敷市内、高梁市、浅口郡彦根山寺で計18個体を採集している。

13. *Arge captiva* Smith

ニレチュウレンジ

児島市彦崎タコラ山 (1♂ 1952, 5, 3)

保育社「原色日本昆虫図鑑」には、ムネアカチュウレンジとあり、和名は異っている。奥谷先生に問合せた結果、*Arge rejecta* Kirby カタアカチュウレンジと区別がたいので、*Arge captiva* Smith にその幼虫の食草から、ニレチュウレンジの和名を付しているとの、お答えがありました。和名はなかなか統一しにくい別の和名をつけたりすることがあるのでなるべく学名を覚えて下さいとのことである。

北隆館の幼虫図鑑には、ニレチュウレンジ（奥谷）とある。

なお *rejecta* と *captiva* の区別については、各図鑑によって、発生回数もちがっており、後日をまって、合せて記したい。

北海道・本州・四国・朝鮮・支那の各地に普通で、成虫は、5月頃に発生する。幼虫はニレ類の葉を食す。

その後1960, 5, 7に新見市井倉で、ニレの葉上に、か弱く、静止せる雌雄数個体を得ている。また倉敷付近でも、次下の記録をみた。

倉敷市連島町 (1♂ 1961, 5, 13)

倉敷市連島町 (2♂ 1961, 5, 16)

14. *Arge pagana* Panzer

チュウレンジバチ

児島市彦崎 (1♂ 1952, 6, 15)

1961年5月上旬、ノイバラの葉上にいた本種と思われる幼虫十数個体を持ち帰り、飼育したところ、まもなく、落葉の下に、5個体営繕（長径1~1.2mm）短径5~6mm）をし、内2個体羽化する。奥谷先生も紙上で述べられている様、本属幼虫の飼育は、相当困難である。

なお、本種に酷似せる、ニホンチュウレンジバチとの区別ができず、はっきりしたことはいえない。

その後の記録を上げると次下の様である。

倉敷市連島町 (1♂ 1960, 9, 10)

全 (1♂ 1931, 4, 22)

日本全土、朝鮮、北支、シベリア、欧州に広く分布し、日本では、やや稀で、成虫は、4~10月頃まで見られる。幼虫は、バラの葉を食す。

15. *Arge nigripodosa* Motschulsky

アカスジチュウレンジ

倉敷市黒田 (1♀ 1952, 5, 5)

新見市井倉 (1♂ 1959, 5, 3)

倉敷市黒田 (1♀ 1959, 5, 10)

その後、1961年5月13日、ノイバラの新莖に産卵中の本種を採集した。鋸状の産卵管を相当深く、挿入しており、よういにはなれない。莖には、たて11mm位の切り目が入っており、中に2個の、乳白色にやや黄色をおびた卵を発見することができた。

日本全土、シベリアに極めて普通で、年放世代を経過する。幼虫は、バラの葉を食す。

16. *Argo fulvicornis* Mocsary

ツノキウモンハバチ

大山 (1♀ 1952, 7, 21)

*Argo jonasi* Kirby ウモンハバチ余り多くないに酷似するが、次の諸点が相異している。

(1) 一般に小形で体長11mmが9mmになる。

(2) 触角間の隆起は完全にY字状

(3) 前縁脈も暗褐色

17. *Dolerus* sp.

本属のものは、まだはっきりわかっていない。

倉敷市水江 (1♂ 1952, 5, 25)

18. *Pachyprotasis* sp. 本属のものも、まだはっきりわかっていない。

児島市彦崎タコラ山 (1♂ 1952, 5, 3)

以上、第1報に続いて、Tenthredinidae 11種、Argidae 5種、及び、不明種2計18種を掲げたが、産地、成虫発生期間、個体の珍否、食草等については、保育社「原色日本昆虫図鑑」並びに北隆館「日本昆虫図鑑」を全面的に参照した。標本は、筆者宅に所蔵している。

文末になりましたが、いつも親切に御指導を寄せ下さいます、兵庫農大 奥谷楨一先生に深く感謝する次第です。

## ヒラアシキバチの記録とその一生態断面

近 藤 光 宏

(記 録)

1961年10月8日、倉敷市東町、鶴形山南面の枯れたエノキ?の大木で、Symphyta 亜目Siricidae科に属する、本種*Tremex longicollis* Konow ヒラアシキバチを目撃し、産卵中のもの、3♀♀を採集した。

Siricidaeキバチ科のものは、個体により体長に著しい変化がみられ、この3♀♀にも全体的に大きさの変化がみられた。保育社の原色日本昆虫図鑑には、「体長は、雌(産卵管を除き)30mm内外、本州・四国・九州・支那等に分布し、成虫は、10月頃に発生し、各地に普通である。幼虫はエノキに寄生する」とあり一致している。また同社発行の幼虫図鑑には「キバチ科の幼虫は、樹木の材部に穿孔するが、その生活史に関しては殆んど不明である」(奥谷)と述べられており、注目にあたいする。

次いで、産卵の様子、天敵等、観察したままをまとめてみました。  
(産卵)

エノキは、径約1.2 m、高さ10 m位の枯れて1~2年にもなろうかと思われる大木である。産卵は図F1B(1)の様な体位で行われたのであろう。産卵管を幹にさしたまま死んでいる。挿入の仕方には、浅いものや、相当深く入っているものさまざまである。この様な個体を44体、発見し得たが、その半数位は、復部の一部と産卵管のみ残っており、何かに捕食されていた。

産卵したまま死んでいる個体を、エノキの幹、東西南北に分けてみると次の様である。F1B(2)

東面	8 ♀♀	高度	2~4 m
南々	30 ♀♀		1~5 m
西々	6 ♀♀		1~6 m
北々	0		

5~6 m以上になると、視界に限度あり目撃不能、従って各8, 30, 6より多少、個体数は多いと思われる。以上、本種産卵は、北面になく、南面に集中していることは、おもしろい。観察しているおりから、本種2頭が現われ、しばらく旋回して、産卵を開始したが、いずれも、日光のあつている面を避んでいた。丁度午後2時30分、太陽は、南々西にあった。数の上から、日射時間の長い南面に多く、短かい東西に少なくなり、日光のささない北面には産卵しないともいえよう。何が、卵の孵化に影きょうするのか、それがいかに合目的的であるかは、全くわからないが、大変興味あることには間違いない。

(天敵)

観察を続けていたところ、どこからともなくスズメバチがやって来て、産卵中の本種キバチにとびつき、5~6秒間の後飛び去った。

しばらくして、又スズメバチが現われ、本種次の1頭にさばりつくようにして、引きまわしていたが、産卵管が相当深く入っているので、飛び立つまでに、かなり間を要した。

結局、食いちぎり、肉だんごにしているのかあわれにもキバチの翅がまいおりて来た。無防備なキバチにとって、スズメバチは、大の天敵であろうか。これで先に述べた44個体の殆んどが、復部の一部と産卵管のみ残っていたことが理解できたわけである。

追記

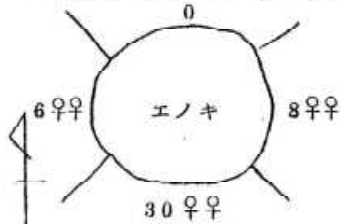
その後、観察の結果と本種1個体を、念の為、Symphytaの大家である兵庫農大、奥谷誠一先生にお送りしましたところ、本種にまちがいないことがわかり、次の様な解答がありましたので追記しておきます。

「安松京三氏の話では、枯木(エノキ)に産卵するとのこと。小生、生きたものをみたことがありませんのでよくわかりません。他のSirexなどは枯木ごとく弱った木に産卵して完全に枯死させることが知られています。観察大変面白く拝見しました」



写真より実写したもの

F1B(2) ヒラアキバチの産卵方位



## 活動しているセナガアナバチ

江藤 光 宏

本種 *Ampulex amoena* Stal セナガアナバチは、台所などにおける有名な習虫であ

る *Periplaneta japonica* ヤマトゴキブリ等ゴキブリ科の天敵として知られている。ハエ、ネズミと共に、伝染病の媒体である。一時は、小児マヒ病原体を媒介するのではないかとさわがれた。夜行性のゴキブリには全く手をやいている折から、1961年8月28日筆者宅において昼下り、寄生蜂にみられるよう、アンテナを忙しく交互に上下し、ゴキブリの卵を求めて、次々に場所を変えていく姿を発見、大変視しみを感しました。かわいそうだがネットした。数日後、同じ場所で、別の個体を目撃することができて安心すると共に、かなり活役していることがわかった。

写真のように、腹部より、胸部が発達していて長く、その割に翅長が短かく、一見ロケットのような独特の型をしている。

保育社の「原色日本昆虫図鑑」には、「体長は17mm内外、本州・四国・九州・対馬・台湾支那に分布し、これまでの記録では、本州における北限は、大阪であったが、京都市内でも発見されている。成虫は、7~8頃に発生し人家付近に多い」とあり、図版は、ミドリ色をしているが、採集したものは、濃い空色をしており、色彩の上でやや異っている。

なお写真は、松田勇氏の御行為によるものである。

## おとしぶみ

### 向山でハリサシガメを記録す

去る1961年10月8日、やっと秋らしくなった空のもと、家族ずれで、近くの丘、通称日間山(倉敷市向山)にて、ささやかなレジャーを楽しんでいたところ、筆者実弟によって、草むらを、くもに追われて逃げて行く、*Acanthaspis cineticus* Stal. ハリサシガメを発見することができた。

本種は、北隆館「日本昆虫図鑑」にみると、「体長16mm内外、本州及九州に産するも、多くない」とされている。また「幼虫は、蟻を捕食し、その尻を背上に負う習性がある」とのことである。

近藤光宏

### 科学作品展の中から Symphyta(広腰亜目)

#### 及び2-3の Apocrita(細腰亜目)

近藤光宏

去る1961年9月15~18日、倉敷、都窪地区の児童生徒発明工夫科学作品展に臨席して、その採集品を拝見したが、中に蜂を出品している児童生徒も多かったです。

夏中休暇を利用した、児童の作品であるから、市内で採集したものが多く、その点診等になったので一応下記に登載しました。

(Tenthredinidae) ハバチ科

*Athalia lugens infumata* Marlatt

シクロカブラバチ

倉敷市沼津 (1960, 8, 1) 東中2年 横田隆六



倉敷市酒津 (1961, 8, 12) 東中2年 平松孝之  
倉敷市川入 (1961, 8, 12) 全 全

*Allantus luctifer* Smith

ハグロハバチ

倉敷市川入 (1960, 7, 13) 横田隆夫  
\* (1961, 8, 4) 平松孝之

*Macrophya coxalis* Motschulsky

クロハバチ

倉敷市川入 (1960, 7, 13) 横田隆夫  
倉敷市平田 (1960, 7, 9) \*

*Macrophya carbonaria* Smith

オオクロハバチ

倉敷市川入 (1960, 8, 4) 横田隆夫

(Argidae) ミフシハバチ科

*Arge similis* Vollenhoven

ルリチュウレンジ

倉敷市酒津 (1960, 8, 16) 横田隆夫

*Arge pagana* Panzer

チュウレンジバチ

倉敷市向山 (1960, 8, 10) 横田隆夫  
三上山 (1961, 8, 7) 東中2年 和坂 進  
倉敷市川入 (1961, 8, 4) \* 平松孝之

(Siricidae) キバチ科

*Tremex longicollis* Konow

ヒラアシキバチ

倉敷市鷗形山 (1961, 8, 5) 西小学1年 池田雅夫  
発生は、10月になっているが、本種にまちがいはないと思う。  
その他に、ダイズハバチ(岡山県特産種)? ナクラヒラタハバチ?と思われるものもいたが  
判明しない。

ヒラアシキバチについては、その他に

倉敷市鷗形山 (1961, 7, 30) 万寿小3年 山下俊三  
三上山 (1961, 7, 30) 東中2年 和坂 進  
の記録があり、発生期に問題を残す。

(Adidae) ミツバチ科

*Thyreus japonicus* Friese

ルリモンハナバチ

倉敷市川入 (1960, 7, 16)  
本種については、Vol. 10 冊1 Page 1960, 8, 2 倉敷市近島町(近藤光宏)の  
記録がある。甚だ稀な種であり、まだ発生がわかっていない。

(Leucospidae) シリアゲコバチ科

Leucospis japonica Walker

シリアゲコバチ

倉敷市酒津 (1♀ 1960.6.6) 廣田

全 (1♂ 1960.6.13) 全

本種についても、すでに特異な形態をした種として、Vol.11, No.1 P7に藤戸、広瀬、彦崎(筆者)の記録が報告されている。

## ☆☆☆ 会 員 動 静 ☆☆☆

### - 新入会員 -

90 林 憲一 都窪郡早島町矢尾134の2 矢掛高校勤務

### - 新 顔 間 -

重井 博 倉敷市旭町 重井内科病院院長

この度、倉敷昆虫同好会の新顔間として、重井博先生を迎えることができたので、紹介させていただきます。先生は、学生時代より昆虫に強い興味を持たれ、戦中戦後にかけて、特に衛生昆虫を専攻されました。現在は、倉敷市で内科病院を開業、その方面で、非常にお忙しい毎日を過ごされていますが、本年には、増築中の四階建ビルの階上に、昆虫館を創設される予定であり、本会にとっても一転期を迎えることになると思われます。会員の皆様と共に今後の発展をきざいていきたいものと思います。

## ~~~~~ 編 集 後 記 ~~~~~

会員の皆様方には、お変わりございませんか。大変遅くなりましたが、ここに「すずむし」Vol.11 No.2号をお届けします。

本号の編集に取りかかる頃には、1961年もすっかり押しせまり、相変わらず黒星を続けています。幹事の不手際も認めなくてはなりません。何か検討すべきことを忘れていたのかもしれない。現状を御批判下さい。

こうしたなかであって、今夏頃から、本会の為に積極的な御援助を頂ける；それも古くから昆虫に興味を持たれている方が現れ意を強くしています。会員皆様方の御協力によっては、正常な会誌発行の日も夢ではなくなりました。(K)

医療法人

重井病院

倉敷市幸町 TEL. 2975  
3215

寸寸むし 第11巻第2号 昭和36年12月25日印刷  
昭和36年12月26日発行

編集兼 岡山大学大原農業生物研究所  
発行者 害虫部第2研究室内  
倉敷昆虫同好会

印刷所 岡崎印刷